

はじめての

# 古文単語

100

例文付き

中学一年（ ）組（ ）号 氏名（ ）

## 1 あさまし

▼二年が間、世の中飢渴してあさましきこと侍りき。（方丈記）

驚きあきれる

## 2 あやし

▼「人の気色、足音す。」あやし」と思ひて、見返りたれば、（古本説話集）  
▼「あやしき身一つ捨てて、二人の恩に報ひてん。」（発心集）

奇妙だ／卑しい

## 3 いとけなし

▼いとけなき子の、なほ乳を吸いつつ臥せるなどもありけり。（方丈記）

幼い

## 4 いとほし

▼観音の「いとほし」と思しめしけるにこそは、く（今昔物語集）

気の毒だ

## 5 言ふかひなし

▼礼儀を知らず無礼なるは、いふかひなし。（沙石集）

どうしようもない

## 6 後ろやすし

▼うしろやすかるべき人もおぼえざりければ、（く娘を弟に託した。）（発心集）

安心だ

## 7 うつくし

▼うつくしきもの。瓜に描きたるちごの顔。（枕草子）

かわいらしい

8 おとなし

大人びている／分別がある

▼少しおとなしき童にてありけるを見たるよし、く(沙石集)

▼人のものを問ひたるに、くうららかに言い聞かせたらんは、おとなしく聞こえなまし。(徒然草)

9 おぼつかなし

はっきりしない

▼このこと、いづれの御時のことにか、おぼつかなし。(古今著聞集)

10 おもしろし

趣がある

▼何となく青みわたるこずゑ梢も、やう変はりておもしろし。(とはすがたり)

11 かしこし

恐れ多い

▼御門の御位は、いともかしこし。(徒然草)

12 かたはらいたし

みっともない

▼ひとへにわが誤ちなれば、悔しくかたはらいたきことかぎりなし。(発心集)

13 かなし

いとしい／悲しい

▼御帰り給ひて後、あまりに恋しく、かなしく思えて。(宇治拾遺物語)

▼(小野小町の臨終の地で)業平、あはれにかなしくおぼえければ、く(無名抄)

14 口惜し

残念だ

▼「あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし。」(平家物語)

15 心憂し

情けない

▼仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心憂く覚えて、く(徒然草)

16 心にくし

奥ゆかしい

▼香ばしき香しけり。いよいよ心にくく思えて、く(宇治拾遺物語)

17 心もとなし

気がかりだ／待ち遠しい

▼「いまだよくもおこた怠り侍らねど、(仕事のこと)が心もとなくて参り侍りつる。」(古本説話集)

▼(新しく夫人を宮中に迎えた時に)帝、心もとなしく思しけるさま、いみじく聞こゆ。(唐鏡)

18 さうざうし

物足りない／寂しい

▼方よろこぶにいみじくとも、色好まざらん男は、いとさうざうしく、く(徒然草)

▼(男が行ってしまった後)女どもも、なほ、あるよりはものさうざうしくて、く(平中物語)

19 さがなし

意地悪だ／口が悪い

▼男にも、をばの御心のさがなく悪しきことを言ひ聞かせたれば、く(大和物語)

▼「口さがなき君達は、長く笑ひなんものをや。」(今昔物語集)

20 すごし

もの寂しい

▼虫の音、あはれに、哀猿の声、ことに心すごし。(撰集抄)

21 つれなし

冷淡だ

▼「君、我をば『つれなし』とや思ひつる。」と泣く泣くのたまへば、く(今昔物語集)

22 つらし

▼情けなく折る人 **つらし** わが宿のあるじ忘れぬ梅の立ち枝を（沙石集）

薄情だ

23 なつかし

▼姿・ことざまも、いみじく尊く **なつかし**くぞ侍りける。（閑居友）

親しみやすい

24 はづかし

▼歌はまことの歌詠みにはあらず。く **恥づかし**の歌詠みやとは思えず。（無名抄）

立派だ

25 まだし

▼山の錦（**川紅葉**）は、**まだしう**はべりけり。（源氏物語）

まだ早い／未熟だ

▼**まだしき**ほどは、これがやうにいつしか（上手になるのか）とおぼゆらめ。（枕草子）

26 むくつけし

▼「物の怪のさまと見えたり。あさましく **むくつけし**。」（源氏物語）

気味が悪い

27 めざまし

▼（美貌の人を）あまたの御方々、**めざましき**ことになお思しける。（唐物語）

不愉快だ

28 めでたし

▼家のさまを見るに、にぎははしく **めでたき**こと、ものにも似ず。（宇治拾遺物語）

立派だ

29 やさし

▼帝のたまはむことに （従うのは） **つかむ**、人聞き **やさし**。（竹取物語）

恥ずかしい／優雅だ

▼歌の道も心得て、**やさしき**女房なりけり。（沙石集）

30 やんごとなし

▼いと **やむごとなき** 際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。（源氏物語）

身分が高い

31 ゆかし

▼「参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、**ゆかし**かりしかど、く」（徒然草）

知りたい／見てみたい

▼岩屋のめでたき見ゆめり。**ゆかし**さに、急ぎ寄りて侍るに、く（撰集抄）

32 わびし

▼胸うちつぶれて、**わび**しくも悲しけれども、く（閑居友）

つらい

33 わりなし

▼「雨の **わり**なく侍れば、やまむまでは、かくて」など言へば、く（大和物語）

どうしようもない

34 わろし

▼昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりて **わろし**。（枕草子）

よくない

35 をかし

▼（螢の）ほのかにうち光りて行くも **をかし**。（枕草子）

趣がある／かわいらしい

▼いと **をかし**き 児をさへ抱き出で給へればく（源氏物語）

36 あてなり

▼一人の女ありけり。すがた、**あてに**して、心、情け深かりけり。(蒙求和歌)

上品だ

37 あはれなり

▼鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへ**あはれなり**。(枕草子)

しみじみと趣がある

38 いたづらなり

▼昨日も**いたづらに**過ぎ、今日もむなしく暮れぬるぞかし。(閑居友)

無駄だ

39 おろかなり

▼わづかに二つの矢、師の前にて、一つを**おろかに**せんと思はんや。(徒然草)

いい加減だ

40 ことわりなり

▼あさましう、心憂げに思ひたるさま、いと**ことわりなり**。(古今著聞集)

当然だ

41 つれづれなり

▼**つれづれなる**ままに、日暮らし、すざり硯すざりに向かひて、く(徒然草)

手持ちぶさただ

42 ねんごろなり

▼親の言(言い付け)なりければ、いと**ねんごろに**いたはりけり。(徒然草)

親切だ

43 むげなり

▼むなしう返し奉らんも**むげに**情けなき様なれば、く(唐物語)

ひどい

44 飽く

▼花に**飽か**で何帰るらむ女郎花多かる野辺に寝なましものを(平中物語)

十分に満足する

45 いぬ (往ぬ)

▼繩を引き切りて、山ぎまへ逃げて**往ぬ**。(古本説話集)

去る

46 いらふ

▼奥の方より、「何ごとぞ」と**いらふる**声すなり。(宇治拾遺物語)

返事をする

47 承る

▼「かくれ給へり」と**承り**しかば、世の中かきくらせる心地して、く(発心集)

お聞きする

48 おきつ

▼人をおきて、高き木に登せて、梢を切らせしに、く(徒然草)

指図する

49 おどろく

▼少し大殿ごもり入りにけるに、ひぐらし 蜩ひぐらしのはなやかに鳴くに**おどろき**給ひて、く(源氏物語)

目を覚ます／はっとする

▼秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ**おどろか**れぬる(古今和歌集)

50 おはします

▼雨いたく降らん時はかくて**おはしませ**かし。(世継物語)

いらっしやる

51 おはす

▼聞きしにも過ぎて、尊くこそ**おはし**けれ。(徒然草)

いらっしやる

52 おほす

▼「雪はいくらほどたまりたるぞ。なほ降るかを見て参れ。」とおほせられければ、く(古今著聞集)

おっしやる

53 おぼす

▼翁を、「いとほし、かなし。」と思しつることも失せぬ。(竹取物語)

お思いになる

54 大殿ごもる

▼殿は待たせ給ふとて大殿ごもらざりければ、く(今昔物語集)

お休みになる

55 おぼゆ

▼なほことごまの優いにおぼえて、ものの隠れよりしばし見わたるに、く(徒然草)

思われる

56 かしづく

▼(道長の娘を)后にも立てんとおぼしめして、かしづき給ひけるほどに、く(沙石集)

大事にする

57 聞こす

▼麗くはし(美しい女性がいる)女をありと聞こしてく(古事記)

聞きなさる

58 聞こゆ

▼天下の人、太子のためには命をも惜しまずと聞こゆれば、参りて従へるなり。(唐鏡)

申し上げる／有名である

▼この世の連歌の上手と聞こゆる人々、寄り合ひて連歌しけるに、く(今物語)

59 具す

▼百人ばかり天人具して、昇りぬ。(竹取物語)

連れていく

60 さぶらふ(候ふ)

▼からい目を見さぶらひて。誰にかはうれ(訴え)へ申し侍らむ。(枕草子)

です／ます／お仕える

▼女御・更衣あまたさぶらひ給ひける中に、く(源氏物語)

61 奉る

▼御笛を取りて、御座の下に進みてこれを奉る。(古今著聞集)

差し上げる

62 たのむ

▼この身のありさま、伴ふべき人もなく、たのむべき奴もなし。(方丈記)

あてにする／あてにさせる

▼たのめしをなほや待つべき(更級日記)  
※「たのむ」が四段活用ならば「あてにする」、下二段活用ならば「あてにさせる」。

63 たまはる

▼細やかなる御文をたまはりて、返事を責めわたり給ふ。(とはすがたり)

いただく

64 たまふ(給ふ)

▼親王、此これを聞きて忽たちまちに哀れびの心を発おこして、弁宗に銭をたまふ。(今昔物語集)

与えなさる／くなさる

▼手を摺りて、「観音助けたまへ」となむまどひける。(今昔物語集)

65 念ず

▼苦しげなるを念じて、細々と一時ばかり言ひ続くれど、く(発心集)

我慢する／祈る

▼一心に念じ奉るに、地獄の、影のごとくにて、側を通り給ふを、く(沙石集)

66 のたまふ

▼「ただとくとく首をとれ。」とぞのたまひける。(平家物語)

おっしゃる

67 ののしる

▼皆あさましがりてののしりけりとなむ、語り伝へたとや。(今昔物語集)

大声で騒ぐ

68 まうく(設く)

▼「いみじき大切の事ありてまうけたる龜なれば、いみじき価なりとも売るまじき。」(宇治拾遺物語)

準備する

69 まうづ・まるる

▼(舟遊びに)この大納言のまゐり給へるを、く(大鏡)

参上する

70 まかづ・まかる

▼京極大納言、内裏よりまかり出で給ひけるに、月おもしろかりければ、く(古今著聞集)

退出する

71 見ゆ

▼雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。(枕草子)

見える／思われる

▼舍人などたまはる際は、(すばらしい)と見ゆ。(徒然草)

72 よばふ

▼昔、津の国に住む女ありけり。それをよばふ男二人なんありける。(大和物語)

求婚する

73 わぶ

▼限りなく遠くも来にけるかな、とわびあへるに、く(伊勢物語)

嘆く

74 ゐる(居る)

▼筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうて居たり。(竹取物語)

座る／じっとしている

▼鳥の、選りてこれにのみゐらむ、いみじう心ことなり。(枕草子)

75 ゐる(率る)

▼人をつけて、「いづくにかゐていぬる。」と見せければ、く(たかむら 篋物語)

連れていく

76 あまた

▼いづれの御時にか、女御・更衣あまたさぶらひたまひける中に、く。(源氏物語)

たくさん

77 いかが

▼かくばかり逢ふ日の稀になる人をいかがつらしと思はざるべき(古今和歌集)

どうして／どうやら

▼「いかがして、その勝劣をば定むべき。」(無名抄)

78 いづく

▼「檜垣の御といひける人に、いかで会はん。いづくにか住むらん。」(大和物語)

どこ

79 いつしか

▼「いつしか、とく夜の明けかし。」(古本説話集)

早く／いつの間にか

▼(長く手紙のやりとりをしないうちに)初時雨、いつしかと(降り始めた)気色立つに、く(源氏物語)

80 いと

▼隔てなき同士さし向かひて、多く飲みたる、いとをかし。(徒然草)

とても

81 **いとど** (亡く) いかにもなりなば、いとど たのお方なくならんずるこそ。(とはずがたり) **ますます**

82 **えゝず** 問ひつめられて、え答へず なり侍りつ。(徒然草) **くできない**

83 **おほかたゝず** 抜かんとするに、おほかた抜かれず。(徒然草) **全くくない**

84 **かく** 「など、かくのたまふぞ。」(宇治拾遺物語) **このように**

85 **げに** 「げに、とかく言ふべきにあらず侍り。(撰集抄) **本当に**

86 **さ** 「我率て行きて見せよ。」さ言ふ (理由) やう あり。(更級日記) **そのように**

87 **さらにゝず** 「子のために、みづからは (死んでしまふならば) なれ。さらに 苦しからず。」(宇治拾遺物語) **全くくない**

88 **なかなか** 父母、姿を見ざりし時よりも なかなか 悲しく思えて、泣く泣く降り下りにけり。(発心集) **かえって**

89 **なくそ** 「これ、いどもの狂はしきことなり。かく な 泣き給ひ そ。(今昔物語集) **くするな**

90 **なほ** いくさの陣へ笛持つ人はよもあらず。 (上臆) は、なほ もやさしかりけり。(平家物語) **やはり**

91 **やうやう** 春はあけぼの。 やうやう 白くなりゆく山きは、すこしあかりて、く。(枕草子) **だんだん**

92 **やがて** (仰向け) 猿、慌てて のけ様 に倒れたるに、男、 やがて 起こさずして、く(今昔物語集) **そのまま／すぐに**  
名を聞くより、 やがて 面影は推し量らるる心地するを、く(徒然草)

93 **よもゝじ** 勝つべきいくさに負くることも よも あらず。(平家物語) **まさかゝないだろう**

94 **いも (妹)** 我妹 子がいかに思へかぬばたまの一夜も落ちず夢にし見ゆる(万葉集) **妻／恋人**

95 **うつつ (現)** うつつ にも夢にも人に会はぬなりけり(伊勢物語) **現実**

96 かたち

▼**かたち** 清げに、髪長く等などして、よき若人になんありける。(平中物語)

顔立ち

97 せ(背)

▼我が**背**子あに我が恋ふらくは夏草の刈り除そくれども生おひしくごとし(万葉集)

夫／恋人

98 便り

▼「いつしかと文上げむ。」と思ふに、たしかなる**便り**もなし。(古本説話集)

機会／手紙

▼語らひつきにける女房の**便り**に、御ありさまなども聞き伝ふるを(源氏物語)

99 つとめて

▼くその夜は泊まりぬ。**つとめて**、いととく京ざまに上りければ、く(古本説話集)

早朝／翌朝

▼冬は**つとめて**。雪の降りたるはいふべきにもあらず。霜のいと白きも、く(枕草子)

100 年ごろ

▼(年老いてやとと石清水八幡を参拜し)「**年ごろ**思ひつること、果たしはべりぬ。」(徒然草)

長年／数年来

▼(土佐で国司を務めた)**年ごろ**よく(交際した)くらべつる人々なむ、別れがたく思ひて(土佐日記)